

学びと成長 レポート

創刊号

1. 「学びと成長調査」について

1-1 「学びと成長調査」と「学びと成長レポート」の目的

「学びと成長調査」は、学生の学びと成長の実態を把握することを目的に実施されています。立命館大学では、学生の学びと成長の実態を把握する上で、3種類のデータを区別しています（表1）。1つ目に、大学・学部・教員のデータです。このデータには、教学の基本骨格をなす人材育成目的と3つのポリシー*、カリキュラムの構造を示すカリキュラム・マップ、ツリー、科目概要が含まれます。大学・学部・教員として、学生の学びと成長を生み出す前提条件となるものです。

2つ目は、学生の学びと成長についての客観データです。個々の科目の試験の素点や科目の成績、GPA、学生の成果物を評価した結果、ポートフォリオの記録を評価した結果が含まれます。学生自身の主観ではなく、評価者による責任ある評価の結果としてもたらされるのが客観データ

表1 学生の学びと成長に関わる3種類のデータ

	①どのような教育を受けたか	②どのように学んだか（学習過程）	③どのように成長したか（学習成果）
(A) 大学・学部・教員のデータ	<ul style="list-style-type: none">・3つのポリシー・カリキュラム・マップ・カリキュラム・ツリー・科目概要		
(B) 学生の客観データ	<ul style="list-style-type: none">・科目履修状況・ES等ピア・サポート活動への参加状況・課外活動（留学、ボランティア、インターンシップ、部活動等）への参加状況		<ul style="list-style-type: none">・GPA・単位取得状況・各種テスト結果・プログラムの成績や成果物
(C) 学生の主観データ	<ul style="list-style-type: none">・学生調査結果（学びの機会に関する項目）・各プログラムのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none">・学生調査結果（学びへの取り組みに関する項目）・各プログラムのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none">・学生調査結果（成長実感に関する項目）・各プログラムのアンケート結果

* ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの総称

です。3つ目は、学生が自分たちの学びと成長について評価した結果としてもたらされる主観データです。授業アンケートや「学びと成長調査」のようなアンケート調査の結果やインタビュー調査の結果が含まれます。立命館大学では、大学・学部・教員のデータ、客観データ、主観データを組み合わせて立体的に把握することを方針としています。

「学びと成長調査」は、学生の主観データとして重要な役割を担います。個々の授業の単位ではなく、それらの集合経験としてのカリキュラムの水準における学生の学びと成長を調査しています。個々の授業では、授業アンケートが実施されています。また、科目以外の教育プログラムや教育活動、課外活動や留学経験、就職活動については、それぞれで効果的な調査方法が採られています。「学びと成長調査」は、授業アンケートやその他の調査と無関係ではなく、それらと連携し、効果的に学生の学びと成長を把握して教育改善に生かしていくことを目指しています。

「学びと成長レポート」では、「学びと成長調査」の結果として、立命館大学生全体における学びと成長の結果を報告します。それに加えて本結果をもとに立命館大学生の学びと成長の共通理解を生み出すこと、調査回答者である立命館大学生のみなさんが自身の成長をふりかえり、これからの自らの学びと成長を考える一助となることを目的として発行します。他の立命館大学生の学びと成長の姿を知ることで、自らの学びと成長への刺激となることを期待しています。



1-2 「学びと成長調査」の概要

「学びと成長調査」は、大きく分けて、1. 教育目標の達成度、2. 学習機会、3. 学習過程、4. 学習成果、5. 満足度・意欲等からなります。調査項目は、学びの立命館モデルの具体化委員会*で検討され、立命館大学として生み出すことを目指す「学びと成長の姿」から項目が設定されています。

はじめに、教育目標とは、学位授与方針に示された学生が卒業時に習得している知識・技能・能力を指します。教育目標の達成度は、自学部の教育目標の達成度合いを尋ねたもので、学部ごとに卒業論文・研究の評価等の客観データと組み合わせ、学習成果の検証において活用できる項目です。次に、学習機会は、どのような授業で学ぶ機会があったかを尋ねています。学習機会には、専門分野、インタラクティブ（双方向）、キャリア形成、授業外学習への寄与に関わる授業経験といった項目が含まれます。学習過程は、どの



* 立命館らしい学びの枠組みと考え方を検討していく委員会

ように学びに取り組んだかを尋ねており、勤勉的学習・主体的学習・協同的学習が含まれています。学習成果とは、学習機会と学習過程の結果として、どのような力が身についたかという成長について尋ねています。学習成果には、専門的素養、グローバル化に関わる能力、課題解決力、他者との協働、コンピューターリテラシー、自己理解・キャリア形成が含まれています。全体に関わる項目として、正課・課外のそれぞれへの満足度と意欲、自身の将来の見通しを尋ねています。また、学部によっては学部独自設問を設けている学部もあります。

新入生調査の場合は、高校時代の体験について尋ねています。また、卒業時調査では、進路と進路決定に至るまでのプロセスについても尋ねています。

1-3 「学びと成長調査」の対象

「学びと成長調査」の調査の対象は、新入生（新1回生）、在學生（2回生以上）、卒業生（卒業予定者）です。それぞれの調査時期や調査の流れについては、新入生調査は4月のオリエンテーション期間で実施、在學生調査は4月～6月の主に小集団授業等で実施、卒業生調査は12月～3月の専門演習または学位授与式当日に実施されています。

各調査の回収率については、次の表2の通りです。

表2 各調査の回収率

調査区分／年度・回収率	2016年度			2017年度			2018年度		
	学生数	回収数	回収率	学生数	回収数	回収率	学生数	回収数	回収率
新入生	7,026	6,226	88.6%	7,939	7,300	92.0%	7,242	6,893	95.2%
在學生	15,993	5,993	37.5%	20,422	11,954	58.5%	21,988	13,111	59.6%
卒業予定者	8,476	4,873	57.5%	8,929	5,197	58.2%	8,801	5,113	58.1%

※学生数は調査を実施した学部の学生数の和

2. 「学びと成長調査」の代表的な結果について

本節では、立命館大学生の学びと成長の全体像と個別結果について示していきます。図1は、立命館大学の「正課の学びと成長に意欲を持っているか」を尋ねた設問の回答結果です。いずれの年度においても、約8割の学生が「意欲がある」「やや意欲がある」と回答しています。新入生については、2017年度新入生で96.5%、2018年度新入生で97.0%が「意欲がある」「やや意欲がある」と回答しています。



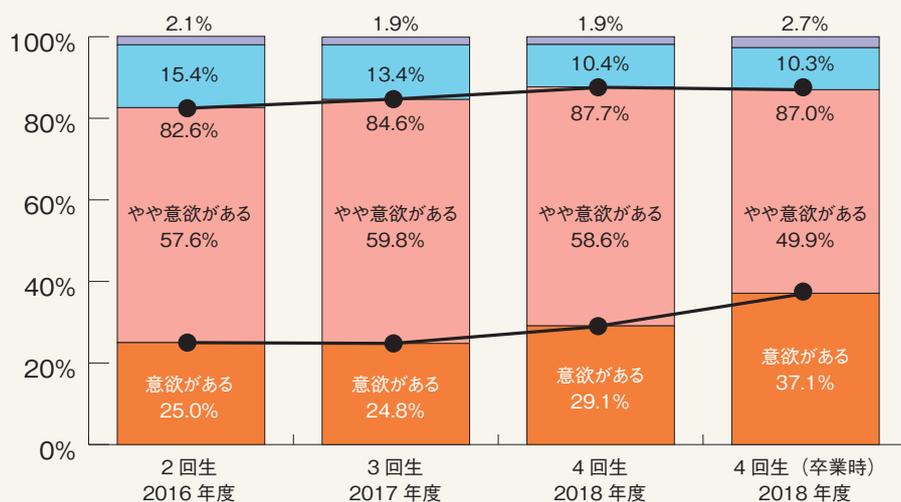


図1 2015年度入学生における正課の学びと成長に意欲を持っているかの回答結果

図2は、「正課の自身の学びと成長に満足しているか」を尋ねた設問の回答結果です。2回生回答時（1回生を通じての学びと成長）と3回生回答時（2回生までを通じての学びと成長）に対しては、7割程度が「満足している」「やや満足している」と回答しています。その割合は、4回生回答時（3回生までを通じての学びと成長）では8割に届き、卒業時には9割近くなるという傾向が見られます。

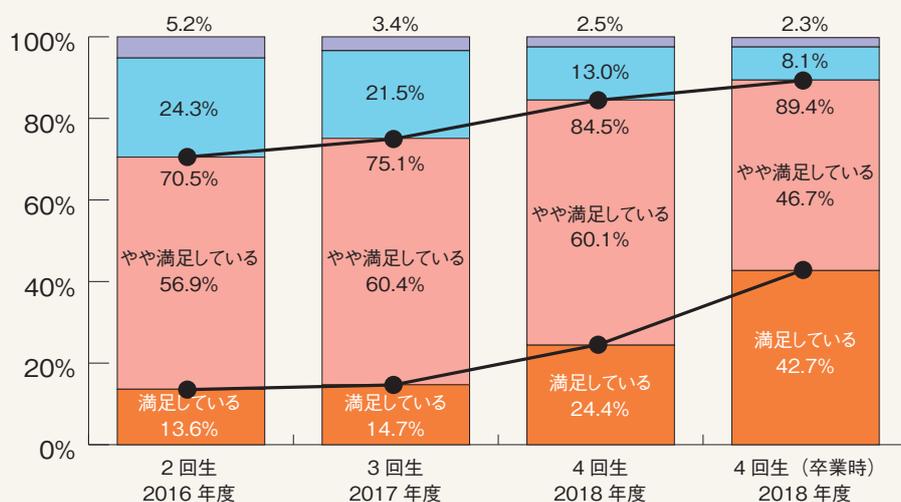


図2 2015年度入学生における正課の自身の学びと成長に満足しているかの回答結果

以上の結果から、立命館大学の学びと成長に対して意欲を高く持って入学し、回生が上がるにつれて自身の学びと成長への満足を深め、卒業時には多くの学生が自身の学びの成果に満足して卒業・進学しているという結果が見られます。